

高オレイン酸含有及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズの栽培計画書

栽培実験名	高オレイン酸含有及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズの評価試験
実施会社・法人名	デュポン株式会社
公表年月日	平成 19 年 4 月 27 日
<p>1. 栽培実験の目的、概要</p> <p>(1) 目的 高オレイン酸含有及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズを隔離ほ場で栽培し、生物多様性影響評価を行う上で必要なデータを得るためです。</p> <p>(2) 概要 本栽培実験はデュポン株式会社 宇都宮事業所内の隔離ほ場において、平成 19 年 5 月から平成 20 年 3 月末まで、このダイズと従来のダイズを栽培し、下記の調査を行います。 形態及び生育特性（発芽率、葉の色、小葉の形、草型、主茎長、開花期、花色、花粉の稔性及びサイズ、収量、越冬性など） 環境に対する影響（有害物質の産生性の調査） 付与された特性の確認（オレイン酸含有量、除草剤耐性）</p>	
<p>2. 栽培実験に使用する第一種使用規程承認作物</p> <p>(1) 作物の名称 高オレイン酸含有及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ (<i>gm-fad2-1</i>, <i>gm-hra</i>, <i>Glycine max</i> (L.) Merr.) (DP-305423-1, OECD UI : DP-305423-1)</p> <p>(2) 第一種使用規程の承認取得年月日または第一種使用規程が申請中である場合にはその旨 本栽培実験に用いる高オレイン酸含有及び除草剤アセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズは、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物多様性の確保に関する法律」に基づき、第一種使用（隔離ほ場試験）の承認申請中です。承認が得られたら、隔離ほ場での栽培実験を開始します。</p>	

3. 栽培実験の全体実施予定期間、栽培開始予定時期及び栽培終了予定期間

(1) 全体実施予定期間

平成19年5月下旬より平成20年3月末まで行う予定です。

(2) 栽培開始予定時期及び栽培終了予定時期等

平成19年5月下旬～6月上旬 : 播種予定

平成19年6～12月 : 各種調査予定

平成19年12月 : 越冬性の調査

平成20年3月末 : 終了予定

4. 栽培実験を実施する区画の面積及び位置

(1) 面積 : 約3a

(2) 栽培実験区画の位置 : 栃木県宇都宮市清原工業団地19-2
デュポン株式会社 宇都宮事業所

5. 同種栽培作物との交雑防止措置に関する事項

栽培試験区は、「第一種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」による交雑防止措置に従って、商業栽培が行われているダイズ畑より10m以上離して設置します。また、開花期には、虫媒を防ぐため防虫網を使用します。

6. 隔離ほ場での収穫物、実験材料への混入防止措置

組換えダイズを隔離ほ場の外に搬出する際には、こぼれ落ちたりしないように密閉容器に入れ、混入を防ぎます。

播種後に防鳥網をかけて鳥害を防ぎます。

隔離ほ場で使用した機械、器具、靴等は、作業終了後、隔離ほ場内で洗浄すること等により、意図せずに組換えダイズが隔離ほ場の外に持ち出されることを防止します。

7. 栽培終了後の第一種使用規程承認作物の処理方法

栽培終了後、ほ場内で栽培した組換えダイズ及び従来品種のダイズは、隔離ほ場内に鋤き込み又は同隔離ほ場内に設置している生ゴミ処理機により処分します。

8. 栽培実験に係わる情報提供に関する事項

本件の第一種使用規程承認申請に係わる生物多様性評価概要は、環境バイオクリアリングハウスのホームページ (<http://www.bch.biodic.go.jp/>) で公開される予定です。

本実験に係わる連絡先：

デュポン株式会社 バイオテクノロジー事業部

電話番号：03-5521-2476

FAX 番号：03-5521-2388

9. その他

平成 15 年から平成 18 年にかけて、米国の延べ 15 箇所のほ場においてはほ場試験を行い生物多様性への影響についての評価を行っています。その結果、組換えダイズと従来品種のダイズとの間で生育特性等に相違は認められませんでした。

我が国においては、平成 18 年 11 月 16 日、農林水産省及び環境省に第一種使用規程の申請を行い、平成 19 年 2 月 26 日に「生物多様性影響評価検討会総合検討会」により「第一種使用規程に従って使用した場合に、生物多様性影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当である」とする検討結果が発表されました。